

平成24年度
博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [採択時公表]

機関名	大阪大学	機関番号	14401
1. 全体責任者 (学長)	<small>※ 共同申請のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。</small> <small>(ふりがな)</small> 氏名・職名 ひらの としお 平野俊夫(大阪大学学長)		
2. プログラム責任者	<small>(ふりがな)</small> 氏名・職名 ほしの としや 星野俊也(大阪大学大学院国際公共政策研究科長・教授)		
3. プログラム コーディネーター	<small>(ふりがな)</small> 氏名・職名 しみずこうきち 志水宏吉(大阪大学大学院人間科学研究科教授)		
4. 申請類型	L <複合領域型(多文化共生社会)>		
5.	プログラム名称	未来共生イノベーター博士課程プログラム	
	英語名称	Doctoral Program for Multicultural Innovation	
	副題	RESPECTプロジェクト	
6. 授与する博士學位分野・名称	専攻分野:文学、人間科学、法学、経営学、医学、保健学、工学、言語文化学、国際公共政策 付記する名称:未来共生イノベーター博士課程プログラム		
7. 主要分科	(① 社会学) (② 教育学) (③ 政治学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	言語学、文化人類学、経営学、総合工学、社会医学		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オナーワシ型は太枠に主要な細目を記入		
	社会学、教育学、国際関係論、外国語教育、文化人類学・民俗学、経営学、地球・資源システム工学、公衆衛生学・健康科学		
9. 専攻等名 <small>(主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)</small>	文学研究科文化表現論専攻、文学研究科文化形態論専攻、人間科学研究科人間科学専攻、人間科学研究科グローバル人間学専攻、法学研究科法学・政治学専攻、経済学研究科経営学系専攻、医学系研究科医学専攻、医学系研究科保健学専攻、工学研究科地球総合工学専攻、工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻、言語文化研究科言語文化専攻、言語文化研究科言語社会専攻、国際公共政策研究科国際公共政策専攻、国際公共政策研究科比較公共政策専攻		
10. 連合大学院又は共同教育課程による申請(構想による申請も含む)の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入			
連合大学院		共同教育課程	
11. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

(機関名:大阪大学 申請類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:未来共生イノベーター博士課程プログラム)

15. プログラム担当者一覧

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成25年度における役割)
(プログラム責任者) 星野 俊也	ホシノ トシヤ	52	大学院国際公共政策研究科国際公共政策専攻・研究科長	博士(国際公共政策)	プログラムの総括
(プログラムコーディネーター) 志水 宏吉	シミス コウキチ	52	大学院人間科学研究科人間科学専攻・教授	博士(教育学)	プログラム全般のマネジメント
平沢 安政	ヒラサワ ヤスマサ	57	大学院人間科学研究科人間科学専攻・研究科長	教育学博士	プログラムの企画・運営
園山 大祐	ソヤマ ダイスケ	40	大学院人間科学研究科人間科学専攻・准教授	修士(教育学)	プログラムの開発・運営
YAMAMOTO BEVERLEY ANNE	ヤマモト ベバリーアン	52	大学院人間科学研究科人間科学専攻・准教授	P.H. D(東アジア研究)	プログラムの開発・改善
稲場 圭信	イナバ ケイシン	42	大学院人間科学研究科人間科学専攻・准教授	P.H. D(宗教社会学)	プログラムの開発・運営
栗本 英世	クリモト エイセイ	55	大学院人間科学研究科人間科学専攻・教授	文学修士	プログラムの企画・運営
森田 敦郎	モリタ アツロウ	37	大学院人間科学研究科人間科学専攻・准教授	博士(学術)	プログラムの開発・運営
渥美 公秀	アツミ キトモヒ	50	大学院人間科学研究科人間科学専攻・教授	P.H. D(心理学)	プログラムの開発・運営
佐藤 眞一	サトウ シンイチ	55	大学院人間科学研究科人間科学専攻・教授	博士(医学)	プログラムの開発・改善
中村 安秀	ナカムラ ヤスヒデ	60	大学院人間科学研究科グローバル人間学専攻・教授	博士(医学)	プログラムの企画・運営
澤村 信英	サワムラ ノブヒデ	52	大学院人間科学研究科グローバル人間学専攻・教授	博士(人間科学)	プログラムの開発・運営
HAWKINS VIRGIL	ホーキンス ヴァージル	38	大学院国際公共政策研究科国際公共政策専攻・准教授	博士(国際公共政策)	学生の履修支援と点検
河村 倫哉	カワムラ ミチヤ	43	大学院国際公共政策研究科比較公共政策専攻・准教授	修士(社会学)	プログラムの開発・運営
松野 明久	マツノ アキヒサ	55	大学院国際公共政策研究科比較公共政策専攻・教授	修士(文学)	学生の履修支援と点検
大槻 恒裕	オツキ ツネヒロ	43	大学院国際公共政策研究科比較公共政策専攻・准教授	P.H. D(農業資源経済学)	学生の履修支援と点検
植田 晃次	ウエダ コウジ	45	大学院言語文化研究科言語文化専攻・准教授	修士(文学)	プログラムの開発・運営
山下 仁	ヤマシタ ヒトシ	52	大学院言語文化研究科言語文化専攻・准教授	文学修士	プログラムの開発・運営
清水 政明	シミス マサアキ	45	大学院言語文化研究科言語社会専攻・准教授	修士(人間・環境学)	学生の履修支援と点検
鈴木 慎吾	スズキ シンゴ	38	大学院言語文化研究科言語社会専攻・講師	博士(言語文化学)	学生の履修支援と点検
上原 順一	ウエハラ ジュンイチ	46	大学院言語文化研究科言語社会専攻・准教授	修士(文学)	学生の履修支援と点検
藪中 三十二	ヤブナカ ミチジ	64	大学院国際公共政策研究科特任教授、外務省顧問(前外部事務次官)		プログラムの企画・開発
渡邊 あゆみ	ワタナベ アユミ	52	NHK・アナウンサー	学士(教養)	プログラムの開発・改善
脇阪 紀行	ワキサカ ノリユキ	57	朝日新聞・論説委員	学士(法学)	プログラムの開発・改善
中西 正人	ナカニシ マサト	60	大阪府教育委員会・教育長	学士(経済学)	プログラムの開発・改善

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成25年度における役割)
榎井 縁	エノイ ユカリ	50	公益財団法人とよなか国際交流協会・理事	修士(人間科学)	プログラムの開発・運営
朴 一	ハク イル	55	大阪市立大学経済学研究科現代経済専攻・教授	博士(商学)	プログラムの企画・開発
千 玄室	セン ゲンシツ	88	日本国際連合協会・会長(兼 日本・国連親善大使、日本国観光親善大使、ユネスコ親善大使、茶道裏千家第15代家元)	博士(哲学・文学)	プログラムの企画・開発
Patrick Joseph Linehan	パトリック リネハン	59	駐大阪・神戸アメリカ合衆国総領事館・総領事	修士(政治学・フィンランド語)	プログラムの開発・改善
小林 義彦	コバヤシ ヨシヒコ	49	公益社団法人関西経済連合会・国際部長	修士(国際公共政策)	プログラムの開発・改善
若月 誠	ワカツキ マコト	62	アクティブユニット有限会社・代表取締役/経営コンサルタント	修士(経営学)	プログラムの開発・改善
橋爪 節也	ハヅメ セツヤ	54	大阪大学総合学術博物館・館長	修士(芸術学)	プログラムの開発・改善
永田 靖	ナガタ ヤスシ	54	大学院文学研究科文化表現論専攻・研究科長	文学修士	プログラムの企画・開発
杉原 達	スギハラ トオル	59	大学院文学研究科文化形態論専攻・教授	博士(経済学)	学生の履修支援と点検
福井 康太	フカイ コウタ	44	大学院法学研究科法学・政治学専攻・教授	博士(法学)	プログラムの企画・開発
長田 真理	ナガタ マリ	41	大学院法学研究科法学・政治学専攻・准教授	博士(法学)	学生の履修支援と点検
高山 正樹	タカヤマ マサキ	61	大学院経済学研究科経営学系専攻・教授	修士(文学)	プログラムの企画・開発
許 衛東	キョウ エイトウ	48	大学院経済学研究科経営学系専攻・准教授	修士(教育学)	学生の履修支援と点検
磯 博康	イソ ヒロユキ	55	大学院医学系研究科医学専攻・教授	博士(医学)	プログラムの企画・開発
永井 利三郎	ナガイ トシサブロウ	62	大学院医学系研究科保健学専攻・教授	医学博士	プログラムの企画・開発
松村 泰志	マツムラ ヤスシ	52	大学院医学系研究科医学専攻・教授	博士(医学)	プログラムの企画・開発
横田 隆司	ヨコタ タカシ	51	大学院工学研究科地球総合工学専攻・教授	博士(工学)	プログラムの企画・開発
松村 暢彦	マツムラ ノブヒコ	43	大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻・准教授	博士(工学)	学生の履修支援と点検
倉敷 哲生	クラシキ テツセイ	41	大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻・准教授	博士(工学)	学生の履修支援と点検
津田 守	ツタ マモル	64	グローバルコラボレーションセンター・教授	MA(社会学)	プログラムの企画・開発
常田 夕美子	トキタ ユミコ	46	グローバルコラボレーションセンター・准教授	博士(学術)	学生の履修支援と点検
森栗 茂一	モリクリ シゲカズ	57	コミュニケーションデザイン・センター・教授	博士(文学)	プログラムの企画・開発
桃木 至朗	モモキ シロウ	56	コミュニケーションデザイン・センター・教授	博士(文学)	プログラムの企画・開発
西口 光一	ニシグチ コウイチ	55	国際教育交流センター・教授	修士(教育学)	プログラムの企画・開発
Castro Juan Jose	カストロ ホアン ホセ	52	国際教育交流センター・特任准教授	博士(構造工学)	学生の履修支援と点検

(機関名:大阪大学 申請類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:未来共生イノベーター博士課程プログラム)

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

【概要】

本プログラムは、総長のリーダーシップのもと、多文化共生に関係する部局を横断した大阪大学の知的リソースと幅広い産学官との連携とを総合して、次世代をリードする若手研究者・実践家が、各自のコアとなる高度で先端的な専攻別の博士学位研究を高めると同時に、グローバル化の進む今日の世界の中で、俯瞰的・独創的な観点と他者に対する深い理解に基づく敬意 (respect) に立脚し、多様で異なる背景や属性を有する人々が互いを高め合い、共通の未来に向けた斬新な共生モデルを具体的に創案・実施できるダイナミックな知識・技能・態度・行動力を持つ、いわば「未来共生イノベーター」となるべき人材の養成を目指す。本事業を「RESPECT (Revitalizing and Enriching Society through Pluralism, Equity and Cultural Transformation) プロジェクト」と称する所以である。さらに、本プログラムでは、人々が、未来志向で、互いに幸福を分かち合える共生社会への変革の道筋をダイナミックに研究する新たな学問体系としての「未来共生学」という学際複合的な学問領域の創成を目指す。

地球規模での相互結合性の拡大や情報通信技術の発展、国境を越える人口移動は、グローバルなレベルでの異文化間の接触を確実に加速化させ、また、今後のデモグラフィック・バランスの遷移(たとえば、アジアの少子高齢化やアフリカの若年層人口の膨張など)や民族構成の変化は、国内ないしローカルなコミュニティの多文化性に大きく影響することになる。多文化共生の推進は、日常の生活(医療現場や都市計画を含む)のなかはもとより、大規模災害や紛争や差別や人権抑圧といった危機的な事態への取り組みや、危機からの復興・和解・平和構築の過程では極めて重要な課題といえる。こうした中、専門分野における先端的なクオリティの高い研究能力に加え、人々が国籍、民族、言語、宗教、性差、世代差、病・障害歴等を含む、人々のアイデンティティの多元性を互いに認め合い、対等な関係を築きながら、よりよい未来の共生社会の形成への変革をリードする力量(知識・技能・態度・行動力)を備えた人材の育成は急務といえる。

【特色】

本プログラムでは、選り抜かれた大学院生が、5年一貫で、本来の専門分野における質の高い博士の学位研究に並行して「未来共生イノベーション」を学修する、実質的な「ダブル・メジャー」教育を行う。広く定義された「多文化性」の相互尊重の多角的な研究に取り組む修了者は、研ぎ澄まされた「多文化コンピテンシー」を持つリーダーとして、多文化共生分野の最先端の研究者はもとより、人文・社会科学・医学・工学等の各分野の研究者や、日本を含む各国の政府・議会、地方自治体、国際機関、グローバル企業、メディア、学校教育、国際協力機関、NGO等で、俯瞰的・独創的立場から「未来共生」をリードする役割が期待される。

履修学生は、総長直轄の大阪大学未来戦略機構のもとに新設される「未来共生イノベーション」部門に所属し、特別に編成された「アカデミックワーク」、「プラクティカルワーク」、「リサーチワーク」の3本立てのカリキュラムを通じ、「多文化コンピテンシー」を構成する6つのリテラシー(多言語、フィールド、グローバル、調査、政策、コミュニケーション)を涵養する。各個人に対しては、研究テーマに合わせ、研究科の枠を超えた論文指導体制を組み、複数言語の運用能力の修得、海外インターンシップや国内フィールドワーク、文理横断のプロジェクト型ラーニングなどが課される。さらに、学生生活面では、留学生と日本人学生がペアになる「バディ制」や学年を超えて学生同士が相互に学び合う「ピア・チュータリング制」を導入する。

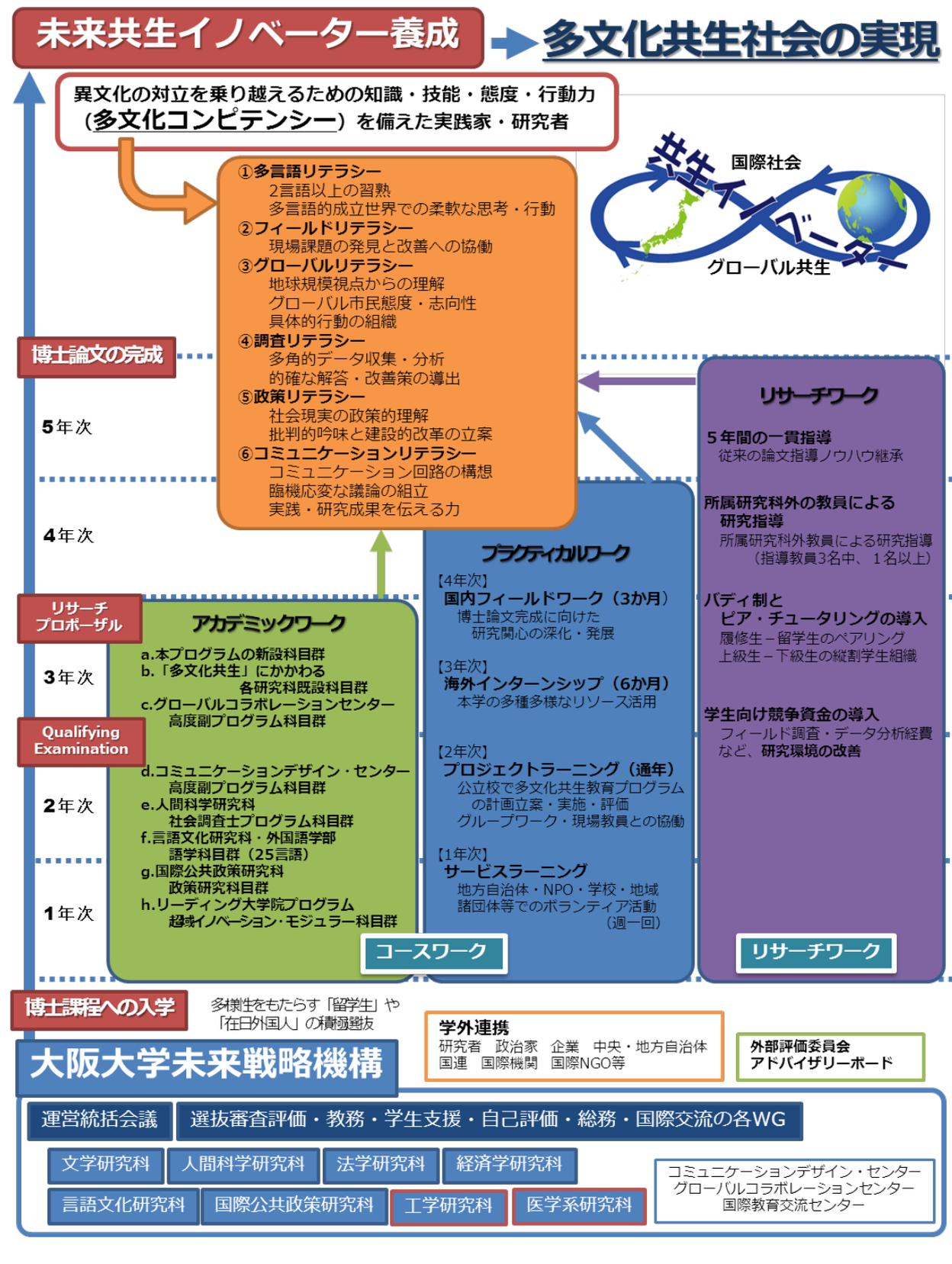
本事業を通じて特に解決すべき課題としては、日本と世界におけるマイノリティ問題への対応、紛争解決・和解・平和構築の促進、災害などの危機における多文化・多言語対応、グローバルな健康医療・公衆衛生分野の革新、多文化配慮のウェルネス重視のまちづくりの促進などが含まれる。

【優位性】

大阪大学では、人間科学研究科(人類学、教育学、社会学、心理学、地域研究)、国際公共政策研究科(国際政治・法・経済学を統合した国際公共政策学)、言語文化研究科(言語学、外国文化研究、及び旧大阪外国語大学のリソースによる25言語教育)を中心に、各研究科の持ち味を生かした多文化共生分野の多様な研究実績があり、人材を輩出している。大阪という立地に由来する人権教育や外国人政策の研究、阪神・淡路大震災や東日本大震災等の大規模災害時の多文化・多言語対応の研究や実践から、世界各地の紛争や和解の分析や復興・平和構築、開発支援の政策研究等まで、現場重視・人間重視の実績がある。加えて本学には、部局横断の全学教育推進機構による教育サポート体制(体験型学習、海外留学支援、コミュニケーション・デザイン科目等の提供)があり、さらに、稲盛財団寄附講座に代表される多くの外部団体からの寄附講座の導入実績がある。これらは「未来共生イノベーション」事業のスタート時点で基盤的な優位性があることを示しており、今回、総長のリーダーシップのもと、未来戦略機構の一部門として、医学系・工学の両理系部局や法・文・経の文系部局、附属病院と総合学術博物館という学内施設からのインプットを統合し、さらに学外からも「未来共生イノベーター」育成と「未来共生学」の創設という趣旨に賛同する産官学の有識者・実務者・機関のネットワークを通じた協力体制が可能となった。以上から、本学には本事業の運営・実施と学生のキャリアパス支援及び補助期間終了後の継続体制も含め、明らかな優位性があると確信する。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



機 関 名	大阪大学
プログラム名称	未来共生イノベーター博士課程プログラム
<p>[採択理由]</p> <p>本プログラムは、地域における多文化との共生を実現できるイノベーターを育成しようとするとともに「未来共生学」という新たな学問の創出を目指す意欲的なプログラムである。単に、外国人居住者、移民と日本人ということではなく、日本におけるマイノリティー問題にも踏み込んでいる点が評価できる。さらに、教育現場での問題、災害時におけるマイノリティーへの対処という重要度が高い具体的問題を素材としていること、そこで鍵となる多言語の使用についても目配りされている点が優れている。</p> <p>教育カリキュラムは、座学中心ではなく、地域の様々な団体において活動する、あるいは調査するといった、プラクティカルな授業が重視されている。プログラム修了予定学生が、1 学年あたり 15 人という規模は適正であり、学生が身に付けるべき能力としての多文化コンピテンシーのコンセプトも明確である。</p> <p>人的資源については、プログラム担当者の役割と本来の専門に隔たりがなく、適切な人選がなされている。学外から 10 名にも及ぶ各界の有力なメンバーをプログラムに関与させていることも高く評価できる。旧大阪外国語大学のスタッフによる多言語教育ができるのも強みである。</p> <p>教育、研究、社会活動においての実績は、多岐にわたって充実している。</p>	